

街路樹の葉も少しずつつき始め、日に日に秋が深まってまいりました。
先生方にはお変わりなくお過ごしでしょうか。

この度は、二年という長い間、先生方には大変お世話になりました。
早いもので支援を卒業してからもう四ヶ月。そして初めて四人で
先生方が我が家に、息子に話をしに来て下さってから三年がたとうと
しております。三年たつて、毎日登校することが当たり前になり、学校の
先生いも、そういわれてみればそんな事もあつた、け？とされるくらい。今は
他の生徒と同じように過ごしていますよ」とお話いただいております。
心配していた勉強も、少しずつ進れを取り戻し、授業についてこくのが
精一杯だったところから、課題やテストへ自分なりに計画的に取り組む。
オンライン授業で、「ここは覚えていた方がいのですか？」と先生に質問したり、
英語のグループスピーチ発表で友達と話したり、
頑張っている様子です。
成績という結果で実力がついたことが自信にもつなげたようです。

学校で話をする友達はいるようですが、コロナ禍ということもあり、どこかに
でかけるようなつき合いはみられないでいます。元々、ここなら行きたくない
やりたい」といって思いで動くタイプだったと気付いてからは、彼の特性なのだ、
きっと自分の思いが出てきたら動くこともあるのだろうと考えるようになるよう
なりました。

高一にわたる今、心も体もだいぶしっかり成長してきて、頼もしくなっ
てきました。家族の中では、まだ甘んか出て、という姿も時々あります。が、
適度な距離をとるときもあれば、一緒に映画を見たり、兄弟で
遊んだり、弟に勉強を教えたり、あの頃とは比べものにならない
穏やかな時を過ごせるようになりました。もちろん兄弟げんかも、
ゲームで負けてイライラしたり、父に叱られてぶっかたり、もまだあります。が、
逆にこの位のことばあることだろうと思え、登校を心配するところだとは
なく過ごしている自分がおります。

ここまでの毎日が送れるようになったこと。この当たり前のように見える
毎日は決して当たり前前のことではなく、本当に特別な幸せなことだという事。
そのことをしみじみ感じると共に、ここまでの入るまでずっと寄り添い温かく、
強くご支援下さいました先生方に心より感謝しております。

家の抱えていた問題が、一番その時弱っていた長男に 学校へ行けないとい
いり形に出たのは中一入学してすぐでした。腹痛で欠席したもののそこから遅刻
五月雨登校と続き、五月連休明けしばらくして完全に欠席となりました。

何がよくなったのか、どりしたらいいのか、原因を考へ夫婦で悩み、あの手この手を
声をかけるもやはり朝起きてみられない、夜いろいろ考へて眠れない、という様子から
完全に昼夜逆転の生活にまで、夏にはなっていました。学校の先生、スクール
カウンセラーにはほもらうん、紹介された心療内科やフリースクール、塾、殆どだ
絵なう...と絵画教室、カウンセリング相談センターなどありとあらゆる所に相談しました。

でも、ごいも具体的に 今目の前で弱って、助けを求められているに
荒れたリパリオンを見つめるしかない子に、どう対応すればいいのかは教えてくれず、

最後に巡り合ったのがこちらでした。同じく不登校から復学を果たし、元気に通える
ようになったお子さんを持つ知人の方の言葉があと押しとなり、悩んだ末に支援を
お願いするにいたしました。"とはかく周りのサポートでも何でも、使えるものは全て使っ
た方がいい。だけど、やはりプロの伴走者がいてくれることが支えだった。"

本人が学校に戻れば済むという話ではなく、ずっとそれまでの年月や、

親子関係、その支えとなる夫婦関係（何でも問題ではと思がらの先回り心配症母と
楽観的で心配しないものの、叱るといふ対応は必要性を感じずあまりしてこなかった父と
子育て観へのギャップとすり合わせの難しさ）が問題だと思っていた私にとって、
そして短い中学生時代を少しでも早く学校に戻した方がいいと考えるようになった主人に
とって、第三者に助けをもらって一緒に頑張る形。そして我が家にと、その
その時必要な対応、言葉かけ、してはいけないこと、などを、その都度

教えて頂けることは、大変有難く、心強いことでした。いつでもメールで

相談できる。お電話で質問できる。ということもどんなに助かっただけ分かります。

何かあったらいつでもメールして下さいね」というお言葉に、何度夜遅くから朝早く

から、ご連絡したことが分かりません。それともいつでも優しく、大丈夫ですよ

と言って下さった辻先生。長く分かりにくい私の話を、ずっとなんか聞いて下さり、的確に

いいこと、よきことを伝えて下さった先生のお陰で、この三年間、大変な時期を

乗り越え、^{なる}ことができました。本当に深く感謝しております。

辻先生には、一番大切な「信じる」ということを教えて頂きました。

（もしこりなったらどうしよう、こりならなにかも、できないかもしれない…）と心配、不安を

抱えていた復学後の息子の相談をしていた時に、「今一番、お母さんが息子さんを

信じてない」と言われてハッとしたあの瞬間は今でも忘れられません。全て

それまでの子育て、自分の不安や心配の為に子どもを信じることができなかったのだ。

自分が困るのが嫌で、人目を気にして、先回りして、干渉して、自分で考え

決定して行動する。その結果を味わり責任を負う、というチャンスを失くして
きてしまったこと。そのことにじから気付けた瞬間でした。他にも沢山の学びを
教えて下さった辻先生、決してあきらめることなく、何度も何度も同じことを伝え
続け、少しづつ身に付けられるようになるまで伴走して下さい、だことお礼申し上げます。
また、一番緊張していた、最初の息子への対応時、初めにお会いした
佐藤先生、「ちゃんと自分の気持ちを話すことができてすごい、なかなかこの場面で
ここまで自分で話せる子は少ないですよ」と言って誉めて頂きました。その頃、
育て方、対応の仕方が悪かったのか、この先どうしたらいいのかと自己肯定感がとても低かった
時に、息子の良さを認めして下さい、だその一言に、どれだけ救われたかれません。
本当にありがとうございます。

また、何度も足を運んで頂いたお兄さん、お姉さんとしての先生方には、
暑い夏の日も寒い冬の日も、重い荷物を背負って坂道を登ってきて
下さり、本当にありがとうございます。長男はもちろんなのこと、兄がずっと

家にいるままで、この先どうなるの、どうかと不安な気持ちでいっぱいだった。お兄さんも救ったがきました。お兄さん達が来て下さった初日に、ぽつと、「お兄ちゃんよかたね」と言った一言が今でも心に残っています。次男が好きてよき見出しだった。コナンのものまねをして場を明るく笑わせて下さった。いつも優しい。

田中先生、登校二日目にして、少し遅刻してもいいだろうと、たまたま時対応で来て下さった時、母性対応の勉強をさせて頂いた。いつも穏やかで優しい。

高田先生、そして、何度も長期休みと一緒に課題をやして下さい。

鈴木先生、答えを写しても何でも大丈夫。真面目にやるのが全てではない、とにかく形にするとか、こうやればよいか、教える頂くことで、息を抜くことが出来る。

よりになったのだと思います。

そして一番最初にお話聞いて下さり、ご支援頂けることをお話下さった。

水野先生、我が家の一番ひどい状態で、夫婦、親子、そして私自身の気持ちコントロールもできなくなって、その時に話を聞いて下さった山下先生。

先生方のお陰で、今の我が家があります。

一緒に登校までの予定を

考えて下さり、「これならば登校できそうな気がする」と言っておっしゃって笑顔になった

息子を見て、こちらにお願いしてよかったと心から思いました。その後、起きる

様々なこと一つひとつに、いつも丁寧に、そして的確に対応して下さいましたこと。

息子の有り越えられるよりそばで応援して下さいましたこと、本当にありがとうございます。

信じること、親が不安でも大丈夫と信じること、どんと構えること、気になるなら

干渉しこりになるなら、離れること、見ないこと等々、そして夫婦の意見すり合わせ方、

お話をしました。最後の部分は、まだまだ課題ですが、少しずつ少しずつ

やっていくうちにできるよりになることを信じて向き合っている最中です。

卒業してからこれまでの間に、実は次男が、夜更かして、課題を夜中に

やって、サイクルが乱れ、夏休み明け何日後に起きられず欠席する

ということがあるました。"できない"と思っただけやらない"という彼の課題が

出た結果でした。翌日から行き、現在も元気に通っておりますが、長男のことは全く心配してはなかった為、次男に来たか、と（これも予期してはなかった）その後何日間にはしばらく、朝ちゃんと起きてくるだろうかと、心配から、昔登校が安定しなかった頃感じていた、血が全身逆流するような感覚や、気持ち悪くて目覚めると、り状態にまだなっていて、自命を早々に感じました。でも主人とよく話し合い、対応し、大丈夫と唱えながら復学当初の長男への対応を思い出し、その後も様々なことを乗り越え、越えることができて、ようやく

辻先生は、報告できると筆をとることができました。この間にも度々子どもに、ついつい干渉をし、何度かあと言っちゃいましたか、と、という

先生の声が聞こえてくる気がしたことで、やはり、もう元に戻らぬよう、これからも気を引き締め、教えて頂いたこと、身に付けたことを思い出し、ながら、子ども達を信じ、その成長を喜び、見守り、夫婦共に、毎日大切に幸せに感謝しながら過ごしてまいります。

本当に長い間お世話になりました。ありがとうございました。ありがとうございます。先生方におかれましては、このコロナ禍とり大変な状況の中での支援様々なご苦労がありがたきことと存じます。でもこれまで以上に助けてほしいお子さん、ご家庭も多々ことと存じます。どうか一人も、一家庭でも多く、今辛く苦しむ状況の方が、元気に前を向いて歩んでいけますように願っております。

先生方どうぞお身体大切に、今後益々のご活躍を
お祈り申し上げます。

かしこ

令和三年十月二十九日

辻先生

ペアレントツキキャンプの皆様